



友の会 Facebook の QR コード

— 2024年3月1日 —

自由民権記念館友の会だより

民権の友

NO. 68

(伊藤 丘城 書)



民権150年記念 「無天忌」墓参と史跡めぐり (2024.1.23)

戦前の復帰を許さぬ決意新たに

最近、同年配の故半藤一利著の『昭和史』と、吉岡敏浩著の『昭和史からの警鐘』の二冊を読了した。昭和・平成・令和の三代を生きてきた者として全くそれらに同感した。

回顧すれば、大日本帝国憲法と教育勅語下の軍国主義教育が鮮やかに甦る。日支事変開始の昭和12年、小学入学後の学校生活は全く戦時色一色だった。全校生の戦勝記念の神社参拝、毎朝の「海行かば」等の斉唱、天皇陛下のために戦う臣民を目指す内容だった。

昭和18年、進学した中学校は太平洋戦争下で、より一層の軍国主義教育の強制だった。軍事教練をはじめ、剣道・柔道・銃剣道はもとより、体操も鉄棒や飛び箱を中心に。軍人勅諭の暗唱や戦陣訓の斉唱。その中身は「死生を貫くものは崇高なる献身奉公の精神也。生死を超越して一意任務の完遂に邁進すべし。心身一切の力を尽くし、従容として悠久の大義に生きることを欣びとすべし。生きて虜囚の辱めを得ること勿れ。死して罪過の汚名を残すこと勿れ。」との文言だった。生きて立派な人間になれとは教えてくれなかった。正に戦死奨励の前身だった。一つだけ良かったのは「英語」が一貫して教えられた。私は英語を熱心に勉強した。それで外大の英米科を卒業して、高校の英語教師になれて定年まで働いた。お陰様で今は年金生活ができています。

昭和33年から教員の勤務評定制度が強行され、教員組合が「勤評は、戦争への一里塚」「教え子を再び戦場に送るな」と懸命の抵抗運動を展開した。私は青年教師として反対運動の先頭に立ち激しく抵抗運動を続けた。抵抗運動終結時の大会総括の「教師の三つの任務」が、その後の私の生きる信条となった。①民主教育の実践②労働者としての生活と権利擁護の運動強化③民主主義者として反動政策と対決し、住民生活の擁護」これが生活の目標となった。定年後は公民館活動・社会教育活動・交通安全運動・社会改善活動・平和運動等に参加し役員にもなってきた。自由民権記念館友の会会員32年間、幹事21年目。微力ながらも務めてきた。今気にかかるのは若者の参加の少ないことである。会員の拡大に向けいっそう努力したいと心から思っている。

(自由民権記念館友の会幹事 岡崎 清恵)

※この欄は、友の会幹事が交代で記述しています。ご意見、ご感想は友の会までお寄せください。

2024 年度

友の会総会・記念講演会のご案内

日 時 **2024 年 4 月 29 日 (月・祝)**
 友の会総会 午後 1 時 30 分～ 3 時
 記念講演会 午後 3 時～ 5 時

場 所 **高知市立自由民権記念館 研修室**
 (高知市棧橋通 4-14-3 ☎ 088-831-3336)

友の会 総会

- 議 題
1. 2023 年度 事業報告
 2. 2023 年度 会計決算報告・監査報告
 3. 2024 年度 事業計画 (案)
 4. 2024 年度 会計予算 (案)
 5. その他

— 休 憩 —

記念講演会

講 師 **筒井秀一氏** (高知市立自由民権記念館館長)

演 題 **『立志社始末紀要』を読む』**

2024 年 1 月 17 日は「民撰議院設立建白書提出から 150 年」ですが、板垣退助は提出後 3 月に帰高し 4 月に立志学舎開校、立志社を設立しています。そこで総会の記念講演は、高知市立自由民権記念館が今秋に計画しています「立志社創立 150 年記念企画展」を前に筒井秀一館長に上記の演題での講演をお願いしました。

【講演概要】

今年 1874 (明治 7) 年の立志社創立から 150 年です。立志社は、数多くの民権結社の中で、先駆性・指導性・豊かに人材の輩出・組織力・財政力など、どの点をとってみても最高の存在であったといわれています。

この機会に、立志社に関する基本資料である、植木枝盛が 1885 (明治 18) 年 5 月から 6 月にかけて執筆した『立志社始末紀要』を読みたいと思います。

二〇二四年三月一日 発行
 発行者 岡林登志郎
 発行所 高知市棧橋通
 四丁目一四番三号
 高知市立自由民権記念館友の会
 TEL (〇八八) 八三一・三三三六

お問い合わせは事務局 ☎ 088 - 831 - 3336 まで。